

令和七年度「社会を明るくする運動」

生駒市 小・中学校

作文コンテスト優秀作品

7月は社会を明るくする運動
強化月間・再犯防止啓発月間

生駒市社会を明るくする運動推進委員会

令和七年度 第七十五回

『社会を明るくする運動』

作文コンテスト 優秀作品

『社会を明るくする運動』は犯罪や非行のない安全安心な地域社会を築くための全国的な運動です。

この作文コンテストは、第四十三回『社会を明るくする運動』（平成五年）から始められ、次代を担う全国の小・中学生に、日常の家庭や学校生活の中で体験してきたことを基に、犯罪・非行のない地域づくりなどについて考えたことや感じたことを作文にすることを通じ、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的として、今回で三十三回目の開催となります。

今年度の作文コンテストには、生駒市内の小学校から七六一作品、中学校から八九二作品、合わせて一六五三作品を提出いただきました。

この作文集は、提出作品の中から厳選し、奈良県作文コンテストへ推薦いたしました入賞作品と特別賞を掲載したものです。一人でも多くの人に作文を読んでいただければ幸いです。

生駒市は市民力が高く、多くの市民の方がお互いを見守り・支え合うことで犯罪の少ない街を実現してきました。登下校時の見守りなど、さまざまな地域活動の結果、関西において刑法犯認知件数が極めて少ない都市となっております。

しかし現代は人と人のつながりが希薄化しがちな時代です。そこから生じる見えない孤立などの問題は、犯罪や非行を招いたり、更生を阻害したりと、世の中に影を落とします。

人を孤独にしない、明るい地域社会を築くためには、一人一人が人との結びつきを大切にし、感謝しあうこと、一人ひとりの多様性を認め、支え合うことが大切です。

生駒市が明るいまちでありつづけるために、今後もこのようなまちづくりをみなさんとともに目指していきたいと思います。

最後になりましたが、作文を提出するに当たって、ご指導いただきました小・中学校の先生方、また、「社会を明るくする運動」の推進委員会の方々には、多大なるご理解とお力添えを賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

令和七年十二月吉日

生駒市社会を明るくする運動推進委員会

委員長 小 紫 雅 史

優秀賞（県作文コンテストへ推薦）

小学校の部

桜ヶ丘小学校	五年	垣内 晴守	社会を明るくするためには
生駒小学校	五年	水野 友理奈	真っ暗なやみの心に明かりを
鹿ノ台小学校	五年	横山 三奈美	社会を明るくするために
俵口小学校	六年	中井 実愛	一つの言葉で
生駒南第二小学校	六年	松谷 優希奈	居場所のある世の中をめざして

中学校の部

大瀬中学校	一年	奥田 唯夏	楽しみ
緑ヶ丘中学校	二年	小林 ももか	心に寄り添ってつくる明るい社会
上中学校	二年	中野 太智	社会を明るくする運動
生駒南中学校	三年	谷口 慶悟	僕なりの行動
光明中学校	三年	松尾 朱莉	言葉の違い

特別賞（生駒市推薦）

あすか野小学校	五年	前部 彩葉	今自分達ができること
大瀬中学校	一年	河崎 凜	あいさつは魔法の言葉
緑ヶ丘中学校	二年	田村 優里愛	地域の人の温かさ

優秀賞

小学校の部

社会を明るくするためには

桜ヶ丘小学校 五年 垣内 晴守

あなたは社会が明るくなるために何かをしたことやしようとしたことはありますか。僕は5つしようとしています。

1つ目は挨拶です。

なぜ挨拶が社会が明るくなるための運動かというと挨拶をすると、みんな明るい気持ちになってくれるからです。

挨拶をして嫌な気持ちになる人は少ないと思います。

なので明るい気持ちになるとみんな暴言だったり暴力というものが少なくなってくると思っています。

なので僕は近所の人に出会ったりすると自分から挨拶をしています。

挨拶が苦手な人はいたりすると思うので、挨拶をせずに一礼をするのでもいいと思います。

2つ目は助ける心です。

どういう意味かというと、例えば近所の人で困っていたらあなたならどうしますか。

僕だったら助ける勇気が必要なので助けるか少し立ち止まってしまいます。

なので今僕は近所の人とできるだけ喋れるように頑張っています。

あなたもぼくと同じように助けることができないのなら近所の人と話す機会を増やすのもいいかもしれません。

話相手が慣れている人だったら気軽に話すことができます。

しかし勇気があれば何事にも挑戦することができます。

それと人を助けると助けてもらった人はとても嬉しい気持ちになります。

そして助けた人も、助けずにもやもやするよりもずっといい気持ちになります。

そして3つ目は犯罪、暴力を無くすための努力です。

僕は政治家のように権力があるわけではないが、友達がやっている暴力や暴言を止めることならできます。

暴言を話すと云われた人はとても傷つきます。僕もたまに弟に暴言をいってしまうことがあります。

その時は弟にさっきはごめんといいます。そうすると

「いいよ」と許してくれます。

人は心を込めて謝るとその気持ちが伝わって許してくれます。

4つ目は謝る心と許す心です。

さっきいったように、心を込めて謝る心を持つのは大事だと思います。

謝ったとしても適当に謝ったならそれは意味のないことです。

適当に謝ったのなら、相手には本当に謝ったのかわかりません。

しかし、本当に心を込めて謝ったのなら、心と心がつながったみたいに分かち合えます。もう一つは許す心です。

相手が本当に心を込めて謝ったのなら許してあげたらどうでしょうか。

相手が本当に謝ったのに許さなかったら相手はずっとモヤモヤします。

それと自分も後々

「謝ってくれたのに」

と思ってしまう。

なので素直に謝ってくれたのなら許してあげるのが大事だともいいます。

5つ目は反省する心です。

反省する心は普段の生活にも関わってきます。

しっかり反省すると悪いことをしてしまっても許す側の人とその気持ちが伝わって反省してる気持ちを受け取って許してくれます。

悪いことをしてしまったとき謝ってしっかり反省することが大事だと思います。

他にも反省をすると自分がだめだったと思い同じ間違いをしないようになります。

それに自己理解が深まり、成長機会を見つけることができます。

僕は今、横に書いた5つのことをやるために頑張っています。

この5つのことを続けたら僕は社会が明るくなると思います。

真っ暗なやみの心に明かりを

生駒小学校 五年 水野 友理奈

「気持ちをためこみすぎてるんじゃない。」社会を明るくする運動作文コンクールがでて、なぜ人が犯罪をおこすかを、お母さんに聞いてみたらそのようなことを言った。

ニュースを見るたびに、ずっと前からなぜ人が、犯罪をおかすか気になっていた。犯罪をおかしても、つかまる、いやな気持ちになる、人からうらまれる……。どれを考えてもいいやなことばかりだ。だから、犯罪をおかす人は頭がおかしい変な人というふうに思っていた。いや、それしか考えられなかった。

でも、お母さんの、その言葉を聞いたときに、ふと、いままでの考えは間違っていたんじゃないかと思った。

わたしも、自分がいやな気持ちになったと

きに、そのことを話せる時間がなかったときや、ちゃんと聞いてもらえなかったときは、とても辛い気持ちになるからだ。それは、たよれる人がいないからだと思う。

わたしは、人はもし、たよれる人がいなくて、なやみや、いやなことを気持ちにためこんで、本当は、辛いのにその気持ちをかくして、未来が暗い真っ暗な、やみの中にとじこめられたらどうなってしまうのだろうと思う。とても辛くて悲しくて、今すぐだれかにたよりたい。手をさしのべてほしいという気持ちになるのではないだろうか。

そして、それは犯罪者も同じだとわたしは思う。家族やたよれる相手がなくて、いやなことがあっても話せる相手はいない。なやみ事があっても話せる相手はいない。そんなもやもやした真っ暗な気持ちを、心のおく底にかくして、がまんできなくなったときに、つい、犯罪には関係ないと思った小さなきっかけが、犯罪を招いてしまうのではないだろうか。

一見、自分には関係ないと思っていた「犯

罪」も、そう考えてみたらとても身近なところにある。

そして、その真っ暗なやみの心に手をさしだして明かりをつけてあげるのは、わたし達ではないだろうか。

もしかしたら、クラスのやんちゃなあの子ども本当は気持ちをためこんでいるかもしれない。もしかしたら、友達の子も気持ちをためこんでいるかもしれない。もしかしたら、家事や仕事で大変な親も気持ちをためこんでいるかもしれない。

そして、その人達の気持ちによりそって、真っ暗なやみの心に手をさしだして明かりをつけてあげるのは、わたし達だ。

わたしには、いやなことやなやみ事を聞いてくれる家族がいる。もし、ちゃんと聞いてくれなくても、他にもわたしをささえてくれるたくさんの人達がいる。

でも、そういう人達がなくて、もやもやした気持ちを真っ暗なやみの心にためこんでいる人は必ずいる。

わたしは、その人達の気持ちによりそって

真っ暗なやみの心に手をさしだして明かりをつけてあげられる人になりたい。

社会を明るくするために

鹿ノ台小学校 五年 横山 三奈美

私は、社会を明るくするために、三つするといいかないかと思ったことがあります。

一つ目は、犯罪や、非行をなくすることだと思います。犯罪や、非行は、少なくともなっ

てきているけど、まだ犯罪や、非行を犯している人は、まだままだいます。

犯罪や、非行を犯してしまっている人達はなぜ犯してしまったのか考えました。犯罪や非行を犯してしまっている人は、何かを求めていたり、何かがほしかったり、するから罪を犯してしまふのかなと思いました。それはすべて、判断力や、こうきしんでやってしまふのかなと思いました。

なので、みんなに判断力や、やってしまふたらいけないことの区別をみなさんに意識をもってもらって犯罪や非行がもつともつと少なくなつて、もつともつとすてきな、みんな

が笑顔になれる、明るい社会にしていきたいです。

二つ目は、助けを求めている人がいたら助けることです。

この世界はみんなのやさしさと、親切で、できていると思います。

困っている人を助けると、助けられた人は、すごくたすかると思うし、助けた人は、すごく感謝をされて、いい気持ちになると思います。

でも、困っている人を助けなかったら、助けなかった人は、心に残ってもやもやすると思います。しかも、後悔すると思うし、助けられなかった人は、すごく困ると思います。最悪亡くなつてしまふ場合もあります。

みんなも自分も守るために助け合いが大事だと思いました。

三つ目は感謝をすることです。二つ目の困った人を助けるといい気持ちになると書いたのも感謝をされるから、いい気持ちになるんだなと思いました。

なので、感謝はいろんなことにつながって

いるので感謝をわすれずするといいい社会になると思います。感謝をされた人は、すごい気持ちだし感謝はわすれてはいけない言葉だと思います。

感謝という言葉には、他人から親切や助けなどに対して「ありがたい」と思う行動や、発言などの意味があります。

私は感謝という言葉はすぐすてきだと思うので、これからも、私達が大人になっても、この日本の感謝という文化を守られ、続いていけるように感謝という文化を大切にしていきたいです。

一つ一つの感謝や、親切が積み重なって、大きな感謝や、親切になると思います。

例えば、だれかが物を落としたり、拾ってあげるなど、本当に少しなことでも積んでいけば、すごい明るい社会になると思います。

今、書いていることだけではなくて、もつと自分が考えた、思ったことをみんなでやれば、とてもいい社会になると思います。

だれか一人でも、「そんなの意味ないよ」

と思ってしまうと、明るい社会には近づけないので、少しでも意識して、明るい、みんなが笑顔になれる、かがやく社会にしていきたいです。

一つの言葉で

俵口小学校 六年 中井 実愛

言葉選びはとても重要だと思いますか？

私は言葉を選ぶときはよく考えてから使おうと思います。言葉は、使い方によって人の心を傷つけることもでき、癒すこともできるからです。

例えば、友達に、『遊ぼう！』と言われた時あなたはどうか答えますか？『無理』と答えるのと、『ごめん、今日遊べないけど、また今度遊ぼうね！』と返すのでは、相手の気持ちにどんな違いが生まれるでしょうか。私は、『また遊ぼう』と言われると、心が温かくなる気がします。言葉一つで、相手に安心感や温もりを伝えることができるのです。

私が試験に落ちた時、励ましてくれる友達が居ます。『次はだいじょうぶだよ』〇〇ちゃ

んは頑張ったね』と優しい言葉をかけてくれます。その言葉を聞くともう一度頑張ろうという気持ちになります。こうした優しい言葉は、私達を支えてくれる大切なものだと感じます。

一方で、傷つける言葉も存在します。誹謗中傷や、差別、いじめ、侮辱などは、たとえ悪意がなくても伝わり方次第で相手を深く傷つけてしまうことがあります。

例えば、友達が失敗したときに「あなたには無理だったよね」と言ってしまうと、その人はとても傷つくと思います。言葉一つで、相手の心に大きな傷をつけてしまうのです。

私たちが日常で使う言葉には、無意識のうちに相手を傷つけてしまうこともあります。たとえば、「なんでそんなこともできないの？」といった言葉や、「あなたはいつも遅いね」といった言い方です。こうした言葉は、本人は気づかず言ってしまうことも多いですが、受け取る側はとても傷つきやすいものです。だからこそ、私たちは言葉の重みをしっかりと理解し、できるだけ優しい言葉を選ぶ

努力をすることが大事だと思います。ちょっとした気遣いや思いやりが、相手の心を救うこともありますし、逆に傷つけてしまうこともあるからです。

私たち一人ひとりが意識して言葉を選ぶことは、自分のためでもあり、周りのためにもなります。日常の会話や、SNSでのやり取りでも、相手の気持ちを考えながら言葉を選ぶことが重大です。たとえば、「ありがとう」「ごめんなさい」「助かるよ」などの感謝や謝罪の言葉は、相手に対する思いやりを伝えることができます、絆を深めるのにもつながります。また、私たちができることは、相手の気持ちに寄り添うことです。もし誰かが傷ついている様子を見たら、「大丈夫？」と声をかけたり、「何かあったら話してね」と優しく伝えたりすることも、言葉の力を活かした優しいさの表現です。こうした小さな気遣いが、周りの環境を少しずつ良くしていくのだと思います。

私は言葉によって命を落とす人が多くいることを知りました。誹謗中傷やいじめを行う

人は、「ストレス発散」や「嫉妬」などの感情を抱いていることが多いと理解しました。なぜ自分の感情や考えを他人に押し付けてしまうのか、その理由について疑問に思いました。家庭や環境、周囲の影響などが関係しているのかもしれませんが、私たちにも少しでも防ぐことができるのではと考えています。私にできることを探しながら、少しずつ行動していきたいと思っています。

居場所のある世の中をめざして

生駒南第二小学校 六年 松谷 優希奈

現在、私は感覚過敏があり、たくさん音がある場所では疲れやすくて小学校にあまり登校することができていません。それでも、私が登校したときには、クラスメイトがよるこんでくれて、学校行事があるときには、私でもできる仕事を割り振ってくれるので自分の役割が必ずあります。だからこそ、学校に通えていない私にも学校に行けば居場所があると感じていて、登校できる日を楽しみにしています。クラスメイトや担任の先生がごく

あたりまえのように接してくれるので、疎外感を感じず自分はここにいてもいいんだと思っています。

だから、私は毎日学校に通えないことに寂しさを感じていますが、孤独だと思ったことはありません。クラスメイトや先生から必要とされていると感じられているので、自分の存在意義を見出せています。

犯罪や非行に走る人の中には、家庭や社会から孤立することで疎外感を感じ、誰にも悩み事や困りごとを相談できずに自分で抱え込んでいる人がたくさんいると思います。

そして、夢や希望をもつことができずに前向きに生きようという気持ちがもてなくなるのではないのでしょうか。

今の私には将来の夢があります。

たくさんの人に助けてもらったり、自分にとって安心できる居場所を作ってもらったりしたことで、私も「誰かを助けられる人になりたい」「誰かの心に寄り添える人になりたい」という思いを抱くようになり、お世話になっている病院の先生の影響を受けて医師に

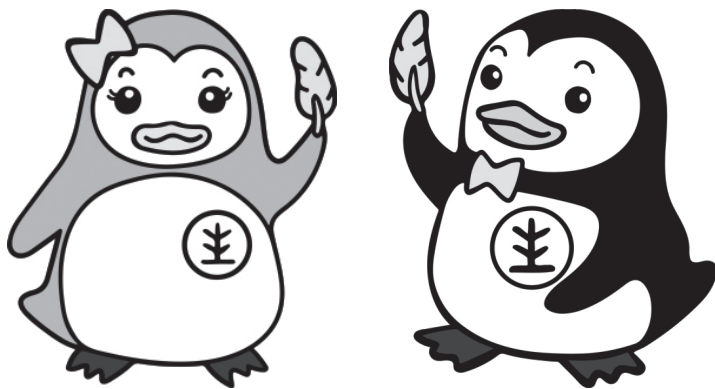
なりたいたいと思うようになりました。将来の夢ができたことで前向きな気持ちで生きることができています。大きな夢を追いかけられることは大変で、苦しくなることがあるけれども、心が弱ったときには誰かに相談できるから、嫌なことや落ち込むことがあっても前向きな気持ちで自分自身と向き合って頑張れています。

また、家庭にも学校にも私を認めてくれる人たちがいて、その人たちが私の夢を応援してくれます。自分のことを応援してくれている人がいると思えることで夢をあきらめずいられます。

私は学校に登校できなくなって、人間は一人では生きていけないことを身をもって感じています。だから、どんな人でも温かく受け入れてくれる居場所づくりや自分の困っていることや悩みを気軽に打ち明けられる場所づくりが必要だと思っています。

そして、世の中には居場所がない人たちがいることを知り、居場所がない人たちが何を必要としているのかを理解する必要があると

思います。少しでも多くの人が安心のできる居場所をみつけて夢や希望をもって生きてほしいと思います。そうすることで、犯罪や非行に走ってしまうことを少しでも未然に防ぐことができるようになると思います。私は将来、安心できる居場所づくりに貢献できる大人になりたいと思っています。



優秀賞 中学校の部

楽しみ

大瀬中学校 一年 奥田 唯夏

私の一日の楽しみは学校への登下校です。最近暑くて辛いときもあるけれど、その辛さをうち消すような楽しみがあります。

まず登校のときの楽しみは、近所の人からの「あいさつ」です。犬の散歩をしている人や、花に水やりをしている人、横断歩道近くで旗を持って登校を見守ってくれている人。その人たちから、あいさつをされただけで、「今日も頑張ろう」と思えるし、心もあたたかくなります。

二つ目に下校のときの楽しみは、同じ部活の友達といっしょに帰ることです。最近、期末テストが終わったので、テストの話ばかりしています。他にも部活のことや、最近の出来事や給食のことなど、たわいもない話をしています。その友達と話をしているだけで、元気が出るし、笑顔になります。

私には、このような楽しみがあります。他の人から見ると、ちっぽけなものかもしれませんが私が私にとっては百億以上の価値がある楽しみです。

社会を明るくするためには、一日の楽しみが必要だと私は思います。楽しみがあるだけで笑顔になれるし、何事にも一生懸命になれると思うからです。

例えば、夜ご飯に大好物のぎょうざがでるとします。そしたら不思議と元気が出ませんか？もう一つ例を挙げるとしたら次の時間が休み時間なら、もう少しで休み時間だから頑張ろうと思いませんか？

このように、一日の中で、ささいな事でも楽しみがあると、やる気、元気が私は出てきます。これは、きっと地球に生きている人々全員に当てはまると思います。

その地球に生きている人々の一人一人が自分の楽しみを見つけると、みんな、元気が出て、頑張ろうと思えるかもしれません。

けれど、楽しみというものは、なかなか見つけられないかもしれません。また、自分の

まわりの環境が変われば、以前までの楽しみが無くなってしまいかもしれません。

私もそうでした。小学校から中学校へ進学したときに一時期、学校に行くのが辛いと思うことがしばしばありました。学校に行っても仲良い子がほとんどいないし、行っても楽しみが全然なかったからです。

しかし、ある日、その考えがひっくり返るような出来事がありました。それは部活です。部活が始まると、まわりが色付いたように感じました。学校に行くのが楽しみになりました。

どうしても楽しみが見つからない。そんなときは、新しいことを始めてみたり、一日のルーティンを変えてみると新しい発見や、新しい仲間を見つけれられるかもしれません。それさえ見つければ、自然と楽しみも見つけれると思います。大切なのは楽しみを見つければと努力することです。新しいことが苦手なら好きなマンガやアニメを見るのも一つの手だと思います。

このように、私は一日の楽しみが社会を明

るくするカギだと思っています。楽しみは、意外と近くに、ひっそりとひそんでいるかもしれません。

心に寄り添ってつくる明るい社会

緑ヶ丘中学校 二年 小林 ももか

最近、テレビのニュースやインターネットで、少年による犯罪や非行の話題をよく目にするようになりました。万引きや暴力、仲間とのトラブルなど、その内容はさまざまです。私はそういったニュースを見るたびに、「なんでこんなことをしてしまったのだろう」と思うと同時に、「この子達は、どんな気持ちでこうなってしまったのだろう」と考えるようになりました。

私自身は、これまでに大きな問題を起こしたことはありません。でも、学校や習い事などで過ごす中で、心が苦しくなることは何度かありました。例えば、友達に無視されたり、先生に誤解され注意されたりしたときがありました。そんなとき、「どうでもいいや」と思ってしまったこともありました。もちろん、そ

こで何かを壊したり、人を傷つけたりはしませんでした。が、「もう何もかもめんどろ」と感じる気持ちには、もしかしたら非行や犯罪をする人たちと、少し似ている部分があるのかもしれない。

あるとき、落ち込んで一人で帰ろうとしていた私に、友達が「一緒に帰ろう」と声をかけてくれました。たったそれだけのことなのに、心がふわっと軽くなって、「自分はひとりじゃない」と思えたのを今でも覚えています。小さな優しさや気づかいは、人の心を大きく救うことがあるのだと、そのとき気づきました。

犯罪や非行をしてしまった人の中には、家庭で安心できる場所がなかったり、学校でいじめにあっていたり、自分の気持ちを誰にも話せなかったりする人も多いと聞きます。もちろん、悪いことをしてしまった事実を許されることはありません。でも、「なぜそうなったのか」という背景を考えたとき、ただ「悪い人」「こわい人」と決めつけることはできない気がします。私達が見ているのは、そ

の人のほんの一部だけであって、本当は、つらい気持ちを誰かにわかってほしかったのかもしれないのです。

私は空手を習っています。空手は、強さだけでなく、人としての礼儀や思いやり、相手を敬う心を大切にする武道です。道場では、技の前に必ず礼をし、「お願いします」「ありがとうございます」という思いを込めながら礼をすることが基本となっています。技が強いだけではだめで、自分の心と向き合い、冷静に判断する力も求められます。私が空手を通じて学んできたことの中で、いちばん大切だと思っているのは、「自分を大切にすること」と「相手の立場を考えること」です。

ある日、道場で小さな子が間違った動きをしてしまい、恥ずかしそうにしていました。そのときは、先輩の子が「大丈夫、ゆっくりでいいよ」と声をかけていたのを見て、私はとても温かい気持ちになりました。人は間違えるし、失敗するもの。でも、そのときに誰かがそばにいてくれたら、人はまた前を向ける。空手のような、人と人とのつながりが生

まれる場所がもつとたくさんあればいいのにと感じました。

私は思います。社会を明るくするために必要なのは、特別な力や立場ではありません。私達は一人ひとりの、小さな思いやりの積み重ねが大切なんだと思います。たとえば、困っている人に声をかけたり、人の話に耳をかたむけたり、「大丈夫？」とひとこと伝えるだけでも、その人の気持ちは少し変わるかもしれません。

もちろん、すぐに社会全体が変わることはないかもしれませんが、身近な誰かを大切にすることが、少しずつ広がっていく。やがて、大きな力になると思います。私達が「自分だけには関係ない」と思わずに、「もし自分だったらどう思うだろう」と考える事が、社会を明るくしていく第一歩になるのだと思います。

私はこれからも、空手で学んだ心を大切にしながら、人の気持ちに寄り添えるような人でいたいと思います。そして、つらい気持ちを抱えた人が、自分の存在を否定せず、もう

一度前を向けるような、そんな明るい社会を、皆で少しずつ作っていったらいいなと思います。

社会を明るくする運動

上中学校 二年 中野 太智

「社会を明るくする運動」という言葉を初めて聞いたとき、なんだかすごく大きなことのように感じました。社会を明るくすると云われても、自分みたいな中学生に何ができるのかよく分かりませんでした。でも、少し調べてみて、「あ、これってそんなに特別なことじゃないのかもしれないな」と思うようになりました。この運動は、犯罪とか非行とかを減らしたり、そういうことをしてしまった人がやり直せるように応援したりする活動だと知りました。たしかに、テレビやネットのニュースを見ると、悲しい事件やトラブルの話をよく見ます。でも、そういう人たちも、最初から悪いことをしようと思っていなかったんじゃないんじゃないかなと思いました。多分、誰にも相談できなかったり、寂しかっ

たり、助けが必要だったのに気づけなかったのかもしれない。

そう考えると、もしかしたら、自分にもできることがあるのかもしれないと思いました。例えば、学校で一人でいる子に話しかけたり、「大丈夫？」と声をかけたりすることも、社会を明るくすることにつながっているのかもしれないです。なんかそれって、ちょっとだけ勇気があることだけど、自分でもできそうな気がします。実は、前に私も少しづらかったことがあります。クラスでグループを作るときに、うまく入れなくて、ポツンとなったことがあります。そのとき、ある友達が「一緒にやろう」と言ってくれて、すごくホッとしてました。その一言がなかったら、今でもあの時間を思い出すだけで嫌だったかもしれません。だから、自分もあの友達みたいになれたらいいなって思っています。「社会を明るくする」っていうのは、すごく立派なことのように思えるけれど、多分小さなことの積み重ねなんじゃないかなと思います。困っている人に声をかける、あいさつをする、ごみ

を拾う、そういうことのひとつひとつが大事なんじゃないかと感じました。

それと、もし間違ったことをしてしまった人がいたとしても、「もう終わりだ」とか、「ダメな人だ」と思わずに、「やり直せるよ」って思えるような社会になってほしいと思います。失敗は誰にでもあるし、大事なものはそのあとどうするかだと思うからです。作文を書くのはあまり得意じゃないけれど、今回このテーマで考えることで、少しだけ気持ちが変わった気がします。自分にできることは小さいかもしれないけれど、何もしないよりはいいと思うし、これから周りの人をよく見て、やさしく接するようにしたいです。

社会が明るくなるっていうのは、結局は一人ひとりの気持ちや行動なんだと、この作文を書きながら思いました。自分もその中の一人として、できることを少しずつやっていきたいと思います。

僕なりの行動

生駒南中学校 三年 谷口 慶悟

僕たちが暮らしている社会は、多くの人との関わりの中で成り立っています。家族や友達、学校の先生、地域の人々。そんな人と人とのつながりがあるからこそ、毎日を安心して過ごすことができるのだと思います。しかし、社会の中には孤独や不安を抱えている人も少なくありません。中には、つらい思いを抱えたまま間違った道に進んでしまう人もいます。そんな人たちを責めるのではなく、もう一度やり直すことができるよう支えることが、「社会を明るくする運動」の大切な目的です。この運動は、犯罪や非行を防ぐだけでなく、すでに過ちを犯した人たちが再び社会の中で前に生きられるように支援する活動です。最初は犯罪者を支えるなんて怖いと思っていました。しかし、調べていく中で、犯罪の背景には家庭環境や経済的困難、人間関係の孤立など、私たちと地続きの問題があることを知りました。誰でもふとしたきっかけで、間違いを犯す可能性があるのです。ある日、学

校で開かれた講演会で、実際に過ちを犯した経験のある方が話をしてくださいました。少年時代に非行に走り、少年院での生活を経て、現在は地域の青少年支援の活動をしている方でした。その人は「自分を責め続けていた時期に、見守ってくれる人がいたから立ち直れた」と話していました。過ちを悔やみ、人生をやり直そうとする人にとって、一番大切なのは「受け入れてくれる存在」だと強く感じました。私はそれ以来、社会を明るくするために優しい気持ちが必要だと思うようになりました。もちろん、過ちを許すのは簡単なことではありません。でも、それを支える気持ちを持つ人が一人でも増えれば、再び過ちを犯す人も減り、誰もが安心して暮らせる社会に近づいていくはずです。また、この運動は特別な誰かだけが取り組むものではなく、私たち一人ひとりができる行動から始められるという点も大切です。たとえば、学校で孤立している子に声をかけたり、困っている友達に手を差し伸べたりすること。小さなことでも、誰かを思いやる行動は、相手の心を明るくする大きな力になります。僕の身近でも、こんな出来事がありました。クラスに無口な子がいて、いつも一人でいることが多かったのですが、ある日勇気を出して話しかけてみました。すると、その子はとても嬉しそうな表情で、「ありがとう」と言ってくれました。たった一言、声をかけるだけで、こんなに誰かの気持ちを温かくできるのだと実感しました。もしもその子が、いつも誰からも無視され、見て見ぬふりをされていたら、どんな気持ちだったでしょう。孤独や寂しさが重なれば、人は心を閉ざしてしまうかもしれません。だから僕は、社会を明るくするとは、誰もが自分の存在を認めてもらえると感じられる社会をつくることだと思います。そのためには、日々の生活の中で誰かに優しい言葉をかける、助けが必要な人に手を差し伸べる、そして過ちを犯した人にもやり直せるチャンスを与えることが大切です。この運動は、すぐに目に見える成果が出るものではないかもしれませんが、しかし、小さな優しさや思いやりの行動が、やがて大きな安心感や信頼へとつながっ

ていくのだと思います。社会を変えるのは、特別な人ではなく、私たち一人ひとりの行動なのです。私は、これからも自分にできる小さなことを積み重ねていきたいです。そして、誰かの居場所になれるような人になりたいと思います。それが、社会を明るくするための、僕なりの第一歩です。

言葉の違い

光明中学校 三年 松尾 朱莉

私たちは日々、多くの人と関わりながら生活しています。その中で欠かせないのが「言葉」です。言葉は気持ちや考えを伝える大切な手段であり、人と人とのつながりをつくる基本でもあります。

しかし、同じ内容でも、相手が受ける印象や感情は大きく変わってきます。とくに、優しい言葉を使う人と、きつい言葉を使う人とは、その人が周囲に与える印象も、周りに与える影響も全く違います。

まず、優しい言葉を使う人は、周りに安心感や信頼を与えることができます。それは、

相手を思いやる気持ちや心のあたたかさが込められているからだと思います。

たとえば、何か失敗した人に対して、「どうしてそんなこともできないの?」

と言うのと、

「大丈夫だよ、次はきつとうまくいくよ。」

と声をかけるだけで、相手の気持ちは大きく変わります。前者のような言い方は相手を責めるように聞こえ、落ちこませてしまいます。

一方で後者のような言い方では、相手を励まし、前向きな気持ちにさせる力があります。

また、優しい言葉を使う人の周りには、人が集まりやすいと思います。安心して話すことができたり、失敗しても受け入れてもらえる雰囲気があるため、自然とその人のそばにいたくなるのです。やさしさのある言葉は、聞く人の心を和ませ、気持ちを軽くしてくれます。こうした言葉を日常的に使える人は、周りから信頼され、空気を明るくすると思います。

一方で、きつい言葉をよく使う人は、知らず知らずのうちに周りの人を傷付けてしまっ

ていることがあります。たとえ正しいことを言っていたとしても、言い方が強すぎたり冷たすぎたりすると、相手は心を閉ざしてしまふことがあります。

たとえば、

「そんなことも知らないの?」

や

「早くしてよ、迷惑なんだけど。」

といった言葉は、言われた人にとっては、責められているように感じます。素直に反省するどころか、「もう何も言いたくない」と心を閉ざしてしまうかもしれません。

きつい言葉は、その場の空気を重たくし、人と人との間に壁を作ってしまう。周りの人が気をつかって何も言えなくなったり、必要以上に遠慮してしまうようになると、本音で話し合うことが難しくなってしまいます。その結果、クラスやグループの中でも、不安やストレスが溜まりやすくなるのです。

もちろん、全てを優しい言葉でごまかす必要はありません。ときには相手に対して、はっきり注意したり、自分の意見を伝えたりする

ことも大切です。

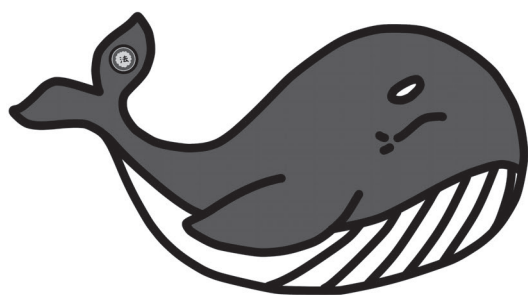
しかし、そのときに「どんな言い方をするか」「相手がどう感じるか」を考えることが重要だと思います。言葉は、ただ意味を伝えるだけでなく、心に残るものです。そのため伝え方によっては、同じ内容でも受け取り方が全く変わってしまうのです。

私自身、日常生活の中で、言葉の力を感じる場面は少なくありません。誰かの優しい言葉に救われたり、反対に思いがけずきつい言葉に傷付いたりすることがあります。その度に、言葉というものが目に見えなくても、心に強く響くものなのだと感じます。だからこそ、できるだけ相手を思いやった言葉を選び、周りの人が安心して過ごせるような空気をつくっていききたいと思うのです。

言葉には、人を元気づけたり、励ましたりする力があります。逆に、人を落ち込ませたり、心を傷付けたりする力もあります。その力をどのように使うかは、自分自身の選択にかかっています。もし全ての人が、少しずつでも言葉づかいに気を配るようになれば、

もつとあたたかくて、思いやりのある社会が生まれるのではないのでしょうか。

私はこれからも、言葉の持つ力を大切にしていきたいです。そして、自分の言葉が相手にどう伝わるのかを考えながら、できるだけ人の心にやさしく届くような話し方を心がけたいと思います。



特別賞

今自分達ができること

あすか野小学校 五年 前部 彩葉

わたし達は今、地いきの人や家族などに支えられています。それには深く感謝をしたいです。なので、おかえしに自分達が今できることをやるんです。例えば、家では、家族のお手つだい。皿洗いや、ごはんを作る、洗たく物をほす、などたくさんあります。それを見ると、家族みんながニコニコ笑顔になると思います。では家を飛び出し、たくさんの人に笑顔をとどけましょう。

まずは、ボランティアの人達を笑顔にしましょう。ボランティアの人達がしていることは、町や近所に訪問をして、困っていることではないかなどと話を聞いてくれます。それと、サロン活動、生まれたばかりの赤ちゃんのことでなやみを聞いたりするのもあります。そして、いつもみんながお世話になっている、登下校時のあいさつ運動もやってくれているのも、ボランティアの人達です。子ども達が

犯罪にまきこまれたり事故にあわないように、してくれるんです。そして「おはようございます。」とも言ってくれます。やさしいですね。そこで「おはようございます。」とわたし達が出ると、ボランティアの人達も笑顔になると思います。それと災害に備えたまちづくりもしてくれています。年に一度ぐらいに、地いきで訓練などが行われています。それに参加してくれたら、ボランティアの人達も、やっと思えます。うれしいな。と思ってくれます。そしてまた一つ笑顔がふえると思います。

次は、身近に自分達ができることに笑顔をとどけましょう。例えば、ゴミの分別をきちんとやるとか、家の周りのゴミ取り、草取りなどをするだけで、ゴミのしゅうしゅう車の人達や近所に住む人達が笑顔になると思えます。少し良いことを自分達がやると、他のだれかがきつと笑顔をもたらしてくれると思います。

次に、学校と関係ある人達に笑顔をおくりましょう。学校と言えば給食ですよ。給食

を作っている人は知っていますか？そう、給食センターの人です。その人達は毎日、給食のこんだてを考えたり、作ったりしてくれています。わたし達も美味しく食べています。では笑顔を作しましょう。給食はかわりやへらすことも出来ますが、食かんを全部食べたかどうか。みんなうれしいですよ。その気持ちは給食センターにも受けわたります。全部食べてくれたら気持ちがピカピカになります。なので、給食センターの人達も、うれしくなつて笑顔になると思います。

最後は、あなたの友達のことです。いつも仲良しでほとんどいっしょにいる子のことをどう思っていますか。最高の友とか仲が合う友達などと思っていると思います。相手もきつとそう思っていると思います。それでは最後の笑顔を作しましょう。いつも楽しい顔で、遊んでいるあなたのことを見ていると友達はもつと楽しんでいいんだと思ひ、とてもニコニコ笑顔になると思ひます。そして、もつともつと色々な人に笑顔の気持ちを伝えて、感謝の気持ちを伝えよう。そうわたし

は思ひました。

あいさつは魔法の言葉

大瀬中学校 一年 河崎 凜

私は、小学生のころ、学校に行くことがいやになつていた。理由は、勉強ばかりでやる気も出ない、一人だったから家から学校までが遠く感じて、つらい。毎日同じことのくり返し。でも、そんなある日、また一人で学校に行つてみると、いつもは、もう誰もいない通学路にゴミ拾いをしていてくれる人がいた。「とても優しい人だな。私もあんな人になりたい。」と思つた。そして、信号が青になり、私が歩き始めるとゴミ拾いをしていていたおじさんが、明るい声で、

「おはよう。」

そう言つてくれた。私はとつさに

「おはようございます。」

と返した。少し声はふるえていたが、なんだか自然と言ふことができた。そして、その瞬間、私の見えていた世界が「パツ」と明るく見えた。心が温かくなつて、嬉しくなつた。

そう感じたのだ。私は今まで、地域の人にあいさつをすることもできず、学校でも、手を挙げて発表することもできなかった。お母さんもお父さんも

「あいさつしないほうが恥ずかしい。」

と言っていた。でも、どうしてもあいさつをする勇気が出せなかった。「もう、私には無理だ。」そう思っていた。でも違った。おじさんは私に無理だと思いこんでいただけと教えてくれた。そんな気がした。そのおじさんの温かい笑顔と元気で明るい声に私は、つられるように、あいさつをすることができた。それから、私は、学校に行くことがとても楽しみになっていった。そして、辛いことや落ちこんでしまいそうなことがあっても、あのあいさつが私の心の支えになってくれていた。「あいさつはこんなにも人を変える力があるのか。」と実感した。

そして、学校では、ずっと楽しくて、嬉しい気持ちでいることができた。

その日から、おじさんは、毎日、私が通るまで、信号のところで待っていてくれるよう

になった。私は例えようもないくらい嬉しかった。

私は、中学生になって、通学路が変わってしまい、会える機会が減ってしまったけど、今は、妹のことを見守ってもらっている。私もまたいつか、おじさんの温かい笑顔と元気で明るいあのあいさつに会いに行く。

あいさつは、その一言でけずなが生まれ、自分の支えになってくれる。さらに、あいさつは、あいさつをした人も、あいさつをしてもらった人も嬉しくなる魔法のようなもの。だから、私が体験したこと、感じたことを、もっと多くの人に感じてほしい。

あいさつは、自分を変えてくれる。自分が変われば周りが変わる。そこから地域が変わり、やがて、世界を一つにする大きな力になる。互いを認め合い、尊重する心へとつながる。それを信じてまた、次のあいさつに向かっていきたい。

地域の人の温かさ

緑ヶ丘中学校 二年 田村 優里愛

「じゃんけんポン」。私の通っていた小学校の通学路には、「じゃんけんおじさん」がいます。じゃんけんおじさんは毎朝早くから小学生が安全に学校に通えるように通学路を見守っている地域の住民の人です。このおじさんが「じゃんけんおじさん」と呼ばれているのは、横断歩道を渡る子どもたちとじゃんけんをしてくれるからです。このおじさんが、毎日じゃんけんをしてくれたおかげで、私達は、登下校のときに不安が少なく、安全で楽しい登校時間を過ごすことができました。じゃんけんおじさん以外にも、私達が使う通学路にはたくさん通学路を見守ってくれている人がいます。きっと、その人たちはそのような活動をする義務はないはずです。だけど、朝早く起きて、自分の子供でもない子供たちが安全に登校するために、登校を見守っていると考えるとこれはとても大変だし、私達、見守られている側からすれば当たり前のように感じるけど、実は当たり前なことではない

かもしれないと思い、とてもありがたいことだと感じました。

また、私のマンションでは毎朝学校に行くときにベランダから「おはよう。行つてらっしゃい。」と言ってくれる人がいます。すれ違うときに「おはようございます。」「こんにちは」と言ってくれる人もいます。学校から帰ってきたら「おかえり」と言ってくれる人もいます。学校では「おはよう」や「ありがとうございます」といつてくれる友達や先生方がいます。私はこの言葉を聞くたびにとても安心できるし、明るく嬉しい気持ちになります。このことから、挨拶は人を元気で明るい気持ちにする効果があるのだと思いました。

気づきにくいことだけど、私はちゃんと地域の人に見守られていて、安全に生活できるような環境を作ってもらっています。この人たちがいなければ、私は今のようになんか安全で楽しい生活を送ることはできていなかったかもしれないです。当たり前前に感じていることが、実は当たり前ではないかもしれない。そう考えると、私の周りの地域の人たちには本当に

感謝しかありません。

私は今まで地域の人達に支えてもらっている立場でした。でも私も中学生になって少しずつ、周りの人を支える立場になっていきます。今までの経験があつてから、私は将来、このように当たり前ではない日々を、当たり前に行なうことができるようなおとなになりたいと思うようになりました。例えば、じゃんけんおじさんのように小さい子でも楽しめるようなことをして、子どもたちが安心して登校を見守ったり、それができなくても「おはよう」「こんにちは」「行ってらっしゃい」「おかえり」という挨拶をして、みんなが安心して暮らすような環境を作っていきたいです。

正直、私は犯罪がない世界や戦争がなく平和な世界を作るために何をすればいいかわからないです。でも、私には挨拶をすることはできます。困っている人に声をかけることもできます。きっと私が地域の人に挨拶をしてもらって嬉しかったように、他の人も挨拶をしてもらえると嬉しいはず。朝登下校のときに見守ってくれると安心できるはずで

す。だから、私は地域の人たちがつくりあげてきた、この安心して過ごせる環境を受け継いでいきたいです。そうすれば、少しずつでも明るい社会に近づいていくはず。す。



犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第75回 社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行から立ち直ろうとする人々を支え、
新たな希望をもたせ、安全・安心な地域社会を創出す取組運動です。
社明 しゅめい



「明るい社会を考える子供たち」へ 「社会を明るくする運動」

生駒市社会を明るくする運動推進委員会

「社会を明るくする」ってどんなこと ？

なんか 難しそうだな

社会って
いうのは

家庭 も 学校 も 学級 も
自分のすんでいる 近所・地域も
はなれたところの地域も
新聞やテレビで出てくるところ
みんな社会です

自分が
したり、してもらったりして
気がついたこと
うれしかったこと

自分から
お手伝いとか
ボランティア（奉仕活動）とか
公園掃除 道案内など
人のために何かをして

心が温かくなった とか

あ
な
た
も
社
会
の
一
人
な
の
よ
ポ
ツ
と
心
が
温
か
く
な
る

難しくなんてないよ
ちょっと 考えてみてね

誰もが
気持ちよく
生活できる

そういう暮らしの中で
お年寄りも 小さい子も
障がいを持った人も
自分も みんなみんな
誰もが 気持ちよく生活する
ために

自分が・誰かが されて
悲しかったこと つらかったこと
などが
解決できたこと

暗い いやな気持ちになった
いじめとか 良くない行動とか
かわいそうな事とか
人に迷惑をかける行動など
一緒に考えてもらったり
解決したりして

心が軽くなった とか

それがあなたのできる「社会を明るくする」ことなのです

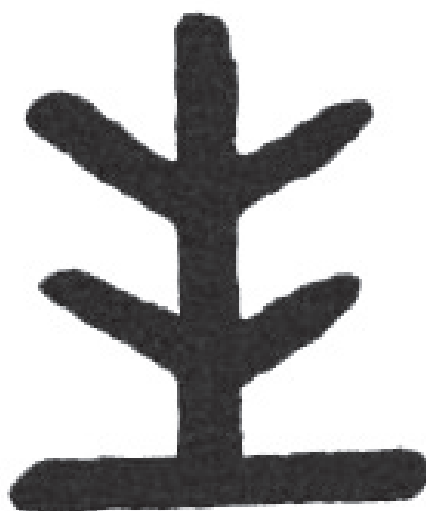
あなたの周りや社会で 心が温かくなったなあと 思ったことを
何か一つのことを中心に あなたの経験や体験を通して
ありのままにかいて提出してください

いつも心温かい作文ありがとうございます。

「生きるマーク」について

「生きるマーク」は、更生保護制度 50 周年を記念して製作されました。

甲骨文・金文の「生」をモチーフに、樹木の芽が伸びていくように、
今、そして未来を生きていく様を表現したものです。



令和 7 年度 「社会を明るくする運動」作文コンテスト優秀作品
発行 生駒市社会を明るくする運動推進委員会
編集 生駒市保護司会

問い合わせ先

生駒市更生保護サポートセンター

〒630-0258 生駒市東新町 1-3 セラビーいこまメディカル棟 3 階

電話・FAX 0743-75-5515

令和 7 年12月